

# 2020 年度スポーツ庁委託事業

## 障害者スポーツ推進プロジェクト事業 (地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)

### 成果報告書

2021 年 3 月

高知県文化生活スポーツ部スポーツ課

□■ 目次 ■□

I	事業実施にあたっての「基本的な考え方」	1
	（1）事業実施の趣旨	
	（2）事業の実施体制	
	（3）実施体制図	2
II	令和2年度事業実施日程	3
III	プロジェクト実行委員会	5
	（1）会議の目的	
	（2）検討事項	
	（3）実行委員会委員	
	（4）実行委員会の開催	
IV	実践研究	13
	（1）関係者が連携し、障害者スポーツの発表の場の活性化を促進する取組のモデルづくり	13
	（2）特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり（運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル）	14
	（3）特別支援学校を拠点とした取組のモデルづくり（在校生や卒業生、障害者福祉施設入所者をターゲットとした活性化モデル）	17
	（4）地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組のモデルづくり	27
V	成果と課題	31

【参考】

高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会設置要綱  
高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会委員名簿

## I 事業実施にあたっての「基本的な考え方」

### (1) 事業実施の趣旨

本県の障害者のスポーツ活動の中心的な役割を担っている県立障害者スポーツセンターは、県中央部に位置しており、県東部や西部におけるスポーツ活動の支援には限界がある。また、それぞれの地域で根ざし重要な役割を担っている特別支援学校や市町村社会福祉協議会なども対象者が限定的であり、単独で動くことが多いことなどから、障害者のスポーツ活動に地域差が生じていたり、運動習慣の定着が十分でないといった課題がみられる。

これらの課題を踏まえ、平成 28 年度より地域における障害者スポーツ普及促進事業において、県障害者スポーツセンター・総合型地域スポーツクラブ・特別支援学校・市町村社会福祉協議会・各福祉施設など様々な団体が連携した取組を実践研究として行ってきた。

県西部での障害者陸上教室の実施や、総合型地域スポーツクラブが特別支援学校（主に知的障害）へアプローチする取組により、障害者のスポーツ活動の場の提供とともに、各関係団体の連携が生まれ深まりつつある。さらに、障害者とその保護者、また、障害者福祉施設入所者や職員等と総合型地域スポーツクラブスタッフや各競技団体スタッフ等の間に信頼関係が構築された。このことにより、総合型地域スポーツクラブに障害者が参加するバドミントンサークルが立ち上がったことや障害者福祉施設の職員が自主的に日常的なスポーツ活動を計画するなど大きな成果にもつながっている。

令和 2 年度の事業は、これまで取り組んできた成果を生かしつつ、地元の関係者との連携強化に必要な人材に協力を求め、「特別支援学校の在校生や卒業生、障害者福祉施設の入所者をターゲットとした取組や障害スポーツの理解啓発の取組」や「地域の障害者福祉施設入所者やその家族をターゲットとした取組」により、障害当事者以外も巻き込んだ取組を展開し、障害者スポーツの活動を継続的に提供し、充実させるための基盤づくりを目的とする。

### <事業終了後>

既存事業と関連づけながら本事業での取組を継続、充実させ、その成果を県内に広く普及することにより、障害のある方が身近な地域で安心してスポーツを楽しむことができる機会を提供するとともに、関係者のネットワークの強化を図り、障害者のスポーツ参加の拡大と障害の有無に関わらず誰もが一緒に活動することができる共生社会の実現につなげる。

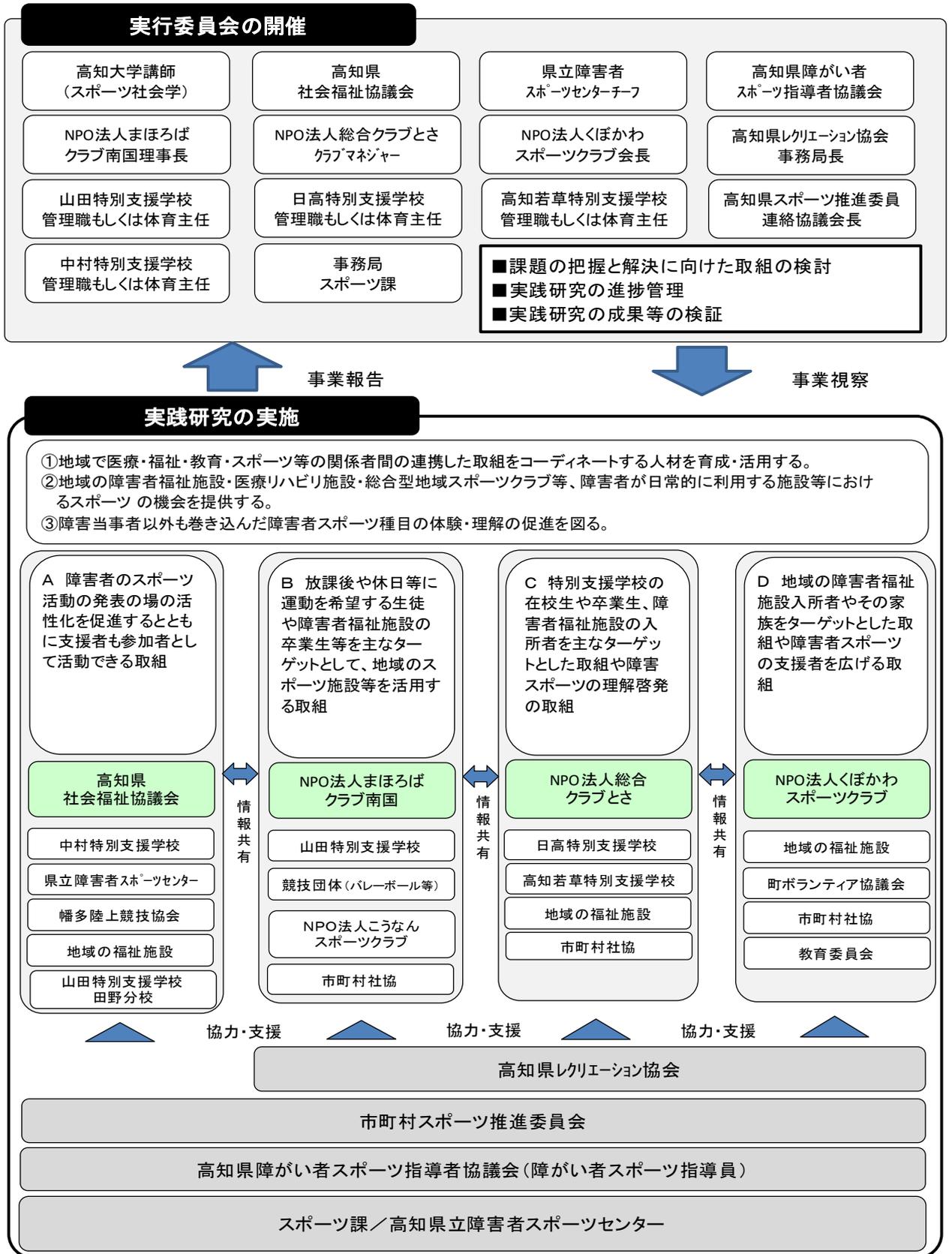
### (2) 事業の実施体制

#### ■高知県文化生活的スポーツ部スポーツ課

統括責任者 1 名：実行委員会の調整・運営、実践研究担当者への指導 等

実践研究担当者 2 名：各実践研究のサポート

(3) 実施体制図



## Ⅱ 事業実施日程

実施月日	実施内容
令和2年7月15日	【事務局】第1回実行委員会
令和2年7月22日	【とさ】第1回関係者検討会議
令和2年8月3日	【まほろば】第1回関係者検討会議
令和2年8月5日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（フリーフロー・フライングディスク・ボッチャ）
令和2年8月12日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（フリーフロー・フライングディスク・ボッチャ）
令和2年8月13日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（スラックレール・バランスボード）
令和2年8月19日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教（フリーフロー・フライングディスク・ボッチャ）
令和2年8月26日	【くぼかわ】第1回関係者検討会議
令和2年9月2日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（フリーフロー・フライングディスク・ボッチャ）
令和2年9月9日	【県社協】第1回審判会議
令和2年9月9日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（フリーフロー・フライングディスク・ボッチャ）
令和2年9月10日	【県社協】第1回関係者検討会議
令和2年9月10日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）
令和2年9月13日	【とさ】障害当事者以外に対する障害者スポーツ体験教室（車いすバスケットボール）
令和2年9月13日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（ダンス・カーレット・ミニボウリング）
令和2年9月14日	【まほろば】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）
令和2年9月15日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）
令和2年9月16日	【まほろば】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）
令和2年9月16日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（フリーフロー・フライングディスク・ボッチャ）
令和2年9月23日	【まほろば】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）
令和2年9月24日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（フライングディスク）
令和2年10月8日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（ダンス）

令和2年10月9日	【くぼかわ】地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ教室）
令和2年10月13日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（ボッチャ）
令和2年10月15日	【県社協】第2回審判会議
令和2年10月15日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（ダンス）
令和2年10月16日	【くぼかわ】地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（ボッチャ教室）
令和2年10月23日	【くぼかわ】地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室（フライングディスク教室）
令和2年10月28日	【県社協】第2回関係者検討会議
令和2年10月30日	【事務局】第2回実行委員会
令和2年11月8日	【まほろば】日常的な運動部活動への専門指導者の派遣（バレーボール）
令和2年11月19日	【県社協】第3回関係者検討会議
令和2年11月21日	【県社協】障がい者スポーツの発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組（東部地区フライングディスク記録会）
令和2年11月25日	【くぼかわ】第2回関係者検討会議
令和2年11月30日	【まほろば】日常的な運動部活動への専門指導者の派遣（バドミントン）
令和2年12月3日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（シッティングバレー）
令和2年12月7日	【まほろば】日常的な運動部活動への専門指導者の派遣（バドミントン）
令和2年12月10日	【まほろば】日常的な運動部活動への専門指導者の派遣（バドミントン）
令和2年12月10日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（シッティングバレー）
令和2年12月13日	【まほろば】日常的な運動部活動への専門指導者の派遣（バレーボール）
令和2年12月18日	【とさ】第2回関係者検討会議
令和2年12月22日	【まほろば】第2回関係者検討会議（書面開催）
令和3年1月17日	【まほろば】日常的な運動部活動への専門指導者の派遣（バレーボール）
令和3年1月23日	【とさ】卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室（ダンス・カーレット・ミニボウリング）
令和3年2月3日	【くぼかわ】各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導者講習会（ボッチャ）
令和3年2月17日	【まほろば】第3回関係者検討会議
令和3年2月17日	【くぼかわ】各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導者講習会（ボッチャ）
令和3年2月24日	【くぼかわ】第3回関係者検討会議
令和3年2月26日	【とさ】第3回関係者検討会議
令和3年2月28日	【とさ】休日や放課後を利用したスポーツ体験教室（シッティングバレー、ターゲットサイン・サーキット、ミニボウリング、ダンス、加ーリング、ボッチャ、シャッフルボード）
令和3年3月5日	【事務局】第3回実行委員会

### Ⅲ 障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会

(1) 会議の目的

実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、スポーツ関係者や福祉関係者、学識経験者などで構成する実行委員会を開催し、実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及する。

(2) 検討事項

- ①課題の把握と解決に向けた取組の検討
- ②実践研究の進捗管理
- ③実践研究の内容、成果等の検証

(3) 実行委員会委員（11人）

- 高知大学講師 1人
- 県社会福祉協議会 1人
- 総合型地域スポーツクラブ関係者 3人
- 学校関係者 4人
- 県スポーツ推進委員連絡協議会 1人
- 県レクリエーション協会 1人

(4) 実行委員会の開催

会議名	日付	内容
第1回実行委員会	令和2年7月15日	事業内容について 意見交換
第2回実行委員会	令和2年10月30日	進捗状況について 意見交換
第3回実行委員会	令和3年3月5日	実績報告について

## 障害者スポーツ推進プロジェクト 第1回実行委員会

### ■実施団体より事業概要説明

#### ○高知県社会福祉協議会の取組について

- ・県西部地域での陸上教室及び陸上記録会の開催、県東部地域でのフライングディスクの記録会の開催を予定している。
- ・モデルづくりの視点「情報発信の工夫」では、特別支援学校等に協力いただき、卒業前の生徒が県社協からの情報を希望する場合は、その生徒の住所等の情報登録をさせてもらい、記録会等の案内をしている。卒業後も継続的に情報が届き、参加に繋げたい。

#### ○まほろばクラブ南国の取組について

- ・特別支援学校の運動部活動の練習に関して総合型地域スポーツクラブから指導者（陸上競技、バレーボール、バドミントン）を派遣する。
- ・休日や放課後を利用したスポーツ体験教室としては、フライングディスク、陸上競技、サッカーを体験してもらうことによって、学校以外の時間に体を動かすことを知ってもらい、そのような時間の使い方を体験してもらいたい。
- ・学校の活動以外に子ども達が運動する機会を楽しんで、時間を過ごしてもらいたい。本来は、保護者と一緒に何かができることが必要。

#### ○総合クラブとさの取組について

- ・福祉施設では、楽しく活動できる種目と競技性のある種目で指導に回り、共通の競技（ボッチャ）で施設同士が交流ができるような取組を行い、施設同士をつなげたいと考えている。

#### ○くぼかわスポーツクラブの取組について

- ・ボッチャ、フライングディスクを中心に行っていく。
- ・健常者と一緒に行うことができる事業を行う。
- ・スポーツ推進委員や教員等の各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導者講習会を実施する。

### ■意見交換

#### ○県社協の行っている卒業生への情報提供の中に、他の実施団体のスポーツ情報を入れたり、市町村の社協の広報紙に県社協の事業を掲載したり、幅広い情報の提供が必要である。

#### ○指導者等の人材については、レクリエーション協会や競技団体に協力いただいている。

#### ○総合型地域スポーツクラブが行っている地域スポーツハブ事業と絡めながら幅をひろげながら取り組んでいきたい。

#### ○スポーツ推進委員の活動に期待されていることは嬉しく思うが、仕事がある委員が多く平日の活動に協力できる委員は少ない。休日は動きやすい委員がいると思う。現在、各

市町村に呼びかけ、障がい者スポーツ指導員としての育成も図ろうとしている。

- 休日にスポーツ活動のボランティアを行った際にボランティア休暇等を推奨するような企業があると支援してくれる人材を確保できるのではないか。
- コロナウイルス感染症によって特別支援学校が休校になった場合、本来集まって行う予定にしていたことや身近にある物を使って生徒自身がスポーツ活動ができるようなオンデマンド配信のような生配信をすることも1つの方法だと思う。
- レクリエーション協会には、いつでも誰でもできるスポーツを行っている団体が加盟しているので、ぜひ活用してもらいたい。コロナウイルス感染症のため、レクリエーション大会が中止になっており、各団体動きやすい状況にある。
- 特別支援学校の課題
  - ・生徒が学校を卒業した後、生涯スポーツにつなげることが課題となっている。県社協の情報登録制度は有り難い。校内でも取り入れていきたい。
  - ・コロナウイルス感染症の影響で生徒が運動不足となり、目に見えて動作の衰えがある。今後、学校が休校となった場合、放課後デイサービス等との連携も必要となってくる。デイサービスの活動の中で運動不足解消を目的に地域の体育館を利用させていただくことも考えられるのではないか。
  - ・デイサービス利用後総合型地域スポーツクラブの体育館を活用した生徒もいるので、学校でも声をかけていただきたい。

## 障害者スポーツ推進プロジェクト 第2回実行委員会

### ■実施団体より事業概要説明

#### ○高知県社会福祉協議会の取組について

- ・陸上競技の教室、記録会と新たにフライングディスクの記録会の開催予定。予算的に95%が陸上競技が占め、陸上競技がメインとなっている。
- ・今年度の実施にあたり、昨年度の参加団体に対して意向調査を行った。大多数が参加を希望され、陸上競技については、日本陸上競技連盟が各都道府県の陸協に対してガイドラインを出しているのので、参考にしながら実施ができると判断し、検討委員会、審判等の調整会議に入った。
- ・幡多陸協の先生方と審判等の調整会を9月10日（木）に行った。その中で参加者の範囲について話し合った。西部地域は比較的コロナの状況が落ち着いている。高知市内から人が来ることに對して、危機感を持っているという方がいらっしゃるということだった。陸協の審判の方も比較的高齢の方が多くを含まれて、今年度は幡多地域を中心とした大会に絞らせていただくということにさせていただきました。幡多地域というのは、中土佐町より西を対象とした。
- ・事務局としては、コロナへの警戒感や昨年度の実績等から恐らく30名前後の参加と予想し、記録会は短時間で終了することが見込まれた。そのため、教室の実施については、別日程で教室を2つ行うのではなく、午前中に教室、午後は教室の成果を発揮する場としての記録会を行うのが良いのではないかという話になり、計画を変更した。11月7日（土）に実施する。
- ・記録会には47名の申込み、教室への申込みは42名。今まで教室への参加は多くて10名程度だったが、大会を兼ねることもあり、教室参加者が非常に増えた。記録会の方も幡多地域に絞った中では、過去最大の参加となり、思った以上に参加希望者がいた。
- ・初めての参加者が7～8名程度おり、新たな参加者層が開けてきている。参加に至る経緯はわからないが、特別支援学級の生徒がいる。他事業で関わった黒潮町の障害者の活動団体も参加している。また、参加者の年齢が比較的若いことが大きな特徴になっている。
- ・これまで参加していた宿毛等の施設、黒潮町の障害者の施設等の年齢層が高いところは、コロナへの警戒感があり参加できないと返事をいただいた。しかし、小学校や特別支援学級等、今まで参加していなかった層が参加し、幡多地域では、トータルの参加者数が増えている。記録会が徐々に浸透してきている気がしている。
- ・「誰もが参加しやすい大会」ということで、当初の予定であれば、支援者がたくさん参加でき、一緒になり競技を行うことを考えていたが、コロナの影響で参加者を絞った。
- ・「情報発信」については、特別支援学校の卒業生や黒潮町の団体への案内をし、新たな広がりもある。

- ・「支える人材」は、教室の講師を障害者スポーツ指導員と特別支援学校の先生方に依頼している。障害者スポーツ指導員の活動の場として、西部地域に登録している方に個別に連絡をし依頼をしている。新たな方は少ないが、県外で資格を取得された方が1名参加する。
- ・「継続した取組になるための工夫」は、特別支援学校と連携し、これまで以上に枠を広げて参加者の募集をさせていただいている。
- ・11月21日（土）結いの丘ドームでフライングディスク記録会を開催する。県の障害者スポーツ大会フライングディスク競技の東部地区大会を同じ場所で開催する。

#### ○まほろばクラブ南国の取組について

- ・今後の事業日程として、バドミントン（11/30、12/7、12/10）、バレーボール（11/8、12/13、1/17）が決定している。
- ・交流バドミントン大会（1/30）実施に向けて、学校と対策を練って慎重に進めて行く。スポーツセンターは全ての競技に関して個人の健康チェック表がないと実施ができないことになっている。更にどういった対策が必要なのかを考えていく必要がある。
- ・フライングディスク大会に向けて「休日や放課後を利用したスポーツ体験教室」を実施した。支援学校の先生も熱心に参加くださり、充実した時間になっている。
- ・まほろばクラブの秋の感謝祭は、当初、10月を予定していたが、南国市の行事がストップした関係で、まほろばクラブの秋の感謝祭は中止となった。その分をバレーボールにシフトする予定である。
- ・10/24に学校独自で保護者会のイベントがあり、参観させていただいた。障害者スポーツ等の専門のUプロさんがやっている行事を勉強させていただいた。そこで、学校の許可を得て、地域スポーツハブで行うイベントに案内できるチラシを配布するようになっている。
- ・まほろばクラブの自主事業の中にダウン症の成人（40～50代）の方が母親と一緒に参加して生活習慣病についての教室に入っている。また、卓球に障害者の方が通常参加してくださっている。
- ・プロジェクトをとおして、地域スポーツクラブに気軽に遊びに来てもらえる環境をこのプロジェクトでさらに進めていきたい。

#### ○くぼかわスポーツクラブの取組について

- ・9/26に第1回検討会を実施。第2回の検討会を11月中旬に開催を予定している。4団体に体験教室や種目別発表会に参加していただく予定だったが、「障害者支援施設オイコニア」、「事業所やまびこ」、「さくら福祉事業所あさぎり」の方から本年度の体験教室の参加ができないとの話があった。「障害者支援施設オイコニア」は、施設内で毎年体験教室を行っているが、外部指導者を施設の中に招き入れることができない、また、外部に施

設の方が出て行くことができないということで、教室ができない状況となっている。

- 対策として、指導者の講習会を開催予定なので、その講習会に施設職員の方に参加していただき、ボッチャの指導者の育成ができれば、職員が施設内でボッチャの指導ができるので、教室の開催が可能であると言って下さっている。
- 「事業所やまびこ」も施設でできるとのことで、「障害者支援施設オイコニア」と同様な形で行う予定である。
- 「さくら福祉事業所あさぎり」は、指導者の講習会には参加できるが、広いスペースがないので教室を行うことは無理であるとの話をいただいている。
- 「作業所由菜の里」は、10/9と10/16にボッチャと10/23に障害者スポーツセンターによるフライングディスクの体験を行っている。当日の勤務者はほぼ参加していただき、休務の方1名も積極的に参加いただいた。
- 「作業所由菜の里」の感染対策については、作業をされているので、限られた時間や日程の中で調整しながら参加となっている。
- ボッチャの成果としては、毎年参加してくださっている団体なので、ルールもある程度理解されており、スムーズに教室を行うことができている。2回程度の教室ではあるが、目に見えてレベルが上がっているのも、楽しく体験ができたように思う。課題としては、体験教室が終わるとボッチャをする機会がとれない状況になり、せっかくスキルが上がってきた中で、また期間が空いてしまうと向上がみられていかないかなと感じている。
- 他の団体が教室に参加できないので、予算を参加できる団体に振り分け、持続して教室ができればと計画している。
- フライングディスクは、ドッチビーを使用したり、ディスクゴルフを行ったりと色々な工夫していただき、参加者の方も終始笑顔の中で体験教室ができた。参加者から「本日は楽しく体が動かして良い運動になった。これからもこういう活動に是非参加していきたい。」との感想をいただいた。
- 「各種目体験教室発表会」としてボッチャの大会を予定しているが、現段階で参加団体が少ないということで大会開催は厳しいかと思われる。そこで、参加団体と健常者の方との大会開催の可否を11月の第2回の検討会で話ができればと考えている。
- 四万十ふくふくまつりは、障害者と健常者が交流する場であったが、新型コロナウイルス感染症防止のため、今年度は中止となる。
- 種目別の指導講習会は、福祉・教育・スポーツ関係者やコロナ禍で外部の指導者を招かれない施設の職員の方を対象に開催できたらと考えている。12月～1月に2回できたらと考えている。

## 障害者スポーツ推進プロジェクト 第3回実行委員会

### ■実施団体より事業概要説明

#### ○高知県社会福祉協議会の取組について

- ・陸上体験教室と陸上記録会がコロナウィルス感染症のため中止になった。実施できた種目は東部地区でのフライングディスクだった。
- ・継続した取組の中で、西部地域において障害者スポーツ指導者養成講習会を実施した。また、情報発信の工夫として中村特別支援学校と連携し卒業後も情報が届くようにしている。
- ・今年度開催できなかったが、陸上体験教室と陸上記録会を同日開催することとしていた。エリアも限定したことなどで参加申込者が増えたことは効果があったと考える。

#### ○まほろばクラブ南国の取組について

- ・バレーボール指導者とバドミントン指導者の派遣を行った。ほとんどはスポーツセンターで実施をした。学校体育館と違った環境であったため刺激があったと思う。なにより指導者の指導力が高かった。実践練習意外にユニークなゲームを入れたりして日ごろしないことを行ったことも効果があったと思う。
- ・交流バドミントン大会はコロナ禍のため実施できなかった。休日や放課後を利用したスポーツ体験教室はフライングディスクを行った。生徒は吸収もはやく上達したと思う。

#### ○総合クラブとさの取組について

- ・学校行事を活用したスポーツ体験教室では、コロナ禍のため日高特別支援学校には全く行けなかった。しかし、学校には体育の授業で使用するため、カローリングやトランポリン用等ニュースポーツの器具を貸し出し利用してもらった。
- ・休日や放課後を活用したスポーツ体験教室では、身体障害者協議会と連携し、土佐市民体育館でボッチャやフライングディスクを実施した。シッティングバレーも実施することができた。
- ・車椅子バスケットボール体験教室では、学校からの参加があり先生も参加してくれたので成果があったと思う。

#### ○くぼかわスポーツクラブの取り組みについて

- ・検討会議を3回した。スポーツ体験教室は1団体のみでの参加であった。そのため発表会も予定していたが1団体だったため実施できなかった。
- ・ボッチャ教室を行い、健常者と障害者が一緒に交流ができるように計画したがコロナの関係で健常者は参加できなかった。
- ・四万十ふくふく祭りでは、交流大会を計画していたが祭り自体が中止となった。各関係

者を対象とした障害者スポーツ種目の指導講習会ではボッチャの指導者講習会を2月に2回実施した。検討会に入っている各団体と施設の方、町内の小中学校に案内を出した。学校の教員の参加については授業時間の関係があり参加が叶わなかった。対策としては、校長会に参加させてもらい事業説明をし参加要請をした。

- 全体を通して課題はコロナ禍のため参加が見込めなかったことである。

## ■意見交換

- コロナ禍において障害のある方については健常者以上にスポーツへの参加に慎重になっていたと思うが、このようなイベントを開催されたことが良かったと思う。参加した方や関係者が気をつければやれるのだと実感した。
- 継続して指導者がきてくれることは大きなメリットである。安心感等につながっている。バドミントン指導者も言葉がけが明快で端的であり知的障害のある子どもにとっては理解しやすいと感じる。視覚的な支援もしっかりされており、わかりやすい指導をしていただけだと思っている。そうした相乗効果で子どもたちのスキルアップに繋がったと感じる。
- 体育の授業で障害者スポーツを取り入れて熱心に行っている。ルールを覚えることは難しいが障害者スポーツを授業で行うことにより、みんなが参加でき楽しく活気のある良い雰囲気を実施できている。今後、コロナの状況によりリモートの活用も考えている。先生方もリモートに慣れてきている。
- 放課後に残れる生徒でないと参加できない。バスの時間があり、バス通学の生徒は活動できない状況があった。また、電車の時間や寄宿舎の時間の制約もあり、保護者の理解をどう得るかが課題である。

## IV 実践研究

障害者スポーツの発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組				
実施団体	高知県社会福祉協議会			
取組の名称	障害者のスポーツの発表の場の活性化を促進するとともに支援者も参加者として活動できる取組			
目的	障害者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ機会を提供する実践研究を通して、県内のあらゆる地域に汎用することができる効果的な取組を行う。			
取組写真				
連携機関等	高知県障がい者フライングディスク協会 高知県障がい者スポーツ指導者協議会 等			
取組内容 種目・指導者等	県西部での陸上記録会は雨天中止となったため、県東部でのフライングディスク記録会のみ実施			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年11月21日フライングディスク記録会	障害児者	9人	9人
	令和2年11月7日陸上教室・記録会	中止	47人	
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	支援者が共に参加できるイベント	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初の支援者参加は見送らざる得ない状況となった。		
成果（○） 課題（●）	○中止にはなったが当初予定の、陸上教室及び記録会にはコロナ禍において、県西部地域から50名弱の申込があり、事務局の予想（30名程度）を大きく上回るものであった。 ●県東部でのフライングディスク記録会には卒業登録した在宅障害者の参加が無かった。情報だけではなく申込作業を含めた1つ1つが高いハードルだと感じる。			
取組の評価	コロナ禍で事業推進を行う過程で、障がいのある方々の警戒感の強さを感じる機会が複数あったと同時に、陸上記録会では事務局の想定を上回る参加申込みがあり、様々なイベントが中止になる中での期待の大きさも感じた。			

特別支援学校を拠点とした取り組みのモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体	まほろばクラブ南国			
取組の名称	休日や放課後を利用したスポーツ体験教室			
目的	放課後や休日等の余暇時間に運動を希望する生徒や障害者福祉施設入所者（卒業生等）のスポーツ体験教室開催など複数の取組を行い、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
連携機関等	山田特別支援学校			
取組内容・種目・指導者	フライングディスク指導者の派遣			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年9月14日 15:30~16:30	山田特別支援学校中・高等部	7人	23人
	令和2年9月16日 15:30~16:30	山田特別支援学校中・高等部	7人	
	令和2年9月23日 15:30~16:30	山田特別支援学校中・高等部	9人	
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	放課後や休日等の余暇時間の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会に向けての専門指導</li> <li>・放課後や休日の希望生徒の運動時間活動の確保（寮や保護者との調整等）</li> </ul>		
成果（○） 課題（●）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加選手の各レベルに応じた指導</li> <li>○大会に合わせた時期、内容での教室を実施</li> <li>○目的がある活動で非常に意義がある、意欲が増す</li> <li>●天候に左右されてしまう</li> <li>●今後どう継続していくか</li> </ul>			
取組の評価	日常的に活動しているわけではなく、大会に合わせて集まる選手達ということもあり熱心に取り組んでいた。また指導者が大会内容を理解しているため十分に濃い指導内容となった。室内でも可能だが大会も含め基本野外の競技なので、予備日を取り出来るだけ野外で行ないたい。			

特別支援学校を拠点とした取り組みのモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体	まほろばクラブ南国			
取組の名称	日常的な運動部活動へのバレーボール専門指導者（障がい者指導員有資格者）等の派遣			
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
連携機関等	山田特別支援学校			
取組内容・種目・指導者	バレーボール指導者の派遣			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年11月8日9:00~13:00	山田特別支援学校バレーボール部	13人	20人
	令和2年12月13日9:00~11:00	山田特別支援学校バレーボール部	3人	
	令和3年1月17日9:00~12:00	山田特別支援学校バレーボール部	4人	
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	障害の程度に合わせた指導ができる 地域指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた専門指導の工夫</li> <li>・バス送迎</li> </ul>		
成果 (○) 課題 (●)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設環境が良く、のびのびと練習が出来た(前年度も行なっている為準備もスムーズ)</li> <li>○いつもと違う環境に選手のモチベーションが高く、楽しく取組めた</li> <li>○指導者と選手が打ち解けている</li> <li>●在校生が参加の難しい曜日</li> </ul>			
取組の評価	会場が広く天井が高い、また学校の体育館よりも暖かく体も動かしやすいと環境変化に評価を得た。今後も外部会場での活動は継続していきたい。			

特別支援学校を拠点とした取り組みのモデルづくり (運動を希望する生徒をターゲットとした活性化モデル)				
実施団体	まほろばクラブ南国			
取組の名称	日常的な運動部活動へのバレーボール専門指導者（障がい者指導員有資格者）等の派遣			
目的	特別支援学校の運動部活動への指導者の派遣後に当該部活動が地域サークルと交流できる交流大会の実施や、障害者スポーツ参加機会の拡充を図る。			
取組写真				
連携機関等	山田特別支援学校			
取組内容・種目・指導者	バドミントン指導者の派遣			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年11月30日 15:30~16:30	山田特別支援学校バドミントン部	11人	33人
	令和2年12月7日 15:30~16:30	山田特別支援学校バドミントン部	10人	
	令和2年12月10日 15:30~16:30	山田特別支援学校バドミントン部	12人	
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	障害の程度に合わせた指導ができる 地域指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた専門指導の工夫</li> <li>・時期に合わせた指導</li> </ul>		
成果（○） 課題（●）	<p>○昨年と同じ指導者により顔見知りになり楽しくできた</p> <p>●時間内に組み込めるメニューを組む</p> <p>●時間が足りない（指導者の意見）※上記課題は本課題の対策</p> <p>●回数が足りない（対象者の意見）</p>			
取組の評価	<p>人見知りする選手が多い中、前年度からの指導者ということもあり話しかけたり笑顔で練習に集中する選手が増えた。</p> <p>部活上、時間を伸ばすことは難しく時間の不足を補うため部活動内だけではなく教室としての展開も視野に入れる。</p>			

学校を拠点とした取組のモデルづくり (卒業生や地域住民が参加するモデル)				
実施団体	総合クラブとさ			
取組の名称	関係者検討会議			
目的	障害者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむことができる機会を提供する実践研究を通して、県内のあらゆる地域に汎用することができる効果的な取組のモデルづくりを行う。			
取組写真				
連携機関等	障害者スポーツセンター・日高特別支援学校・若草特別支援学校			
取組内容・種目・指導者等	総合クラブとさ指導者1名(3B体操) 日高特別支援学校職員2名 障害者スポーツセンター職員1名 土佐市社会福祉協議会職員1名 総合クラブとさ職員1名 総合クラブとさスタッフ2名 県スポーツ課職員1名			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年7月22日 15:30~17:00	関係者検討会議委員	10名	28名
	令和2年12月18日 15:30~16:30	関係者検討会議委員	10名	
	令和3年2月26日 16:00~17:30	関係者検討会議委員	8名	
成果(○) 課題(●)	○コロナ禍での事業のため、学校や指導者の対応などを協議する。 ○コロナ禍なのでできないのではなく、コロナ禍でもできることを考えて開催していく方法を検討した。 ●今後も継続して活動を続けていくためには、受益者負担や保護者、学校が費用を負担することも検討が必要。 ●コロナ禍のため、今までと同じような指導が難しく、教えに行けない指導者も出てきた。			
取組の評価	活動が制限されている中、どのような形なら開催ができるのか、今後に繋げていけるのか協議ができている。			

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	総合クラブとさ			
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室			
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう			
取組写真				
連携機関等	土佐市身体障害者協議会			
取組内容・種目	フリーフロー・フライングディスク・ボッチャ			
・指導者等	総合クラブとさスタッフ1名、フライングディスク協会1名、ボランティアスタッフ2名			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年8月5日 13:30~14:30	身体障害者協議会 会員	12人	74人
	令和2年8月12日 13:30~14:30	身体障害者協議会 会員	13人	
	令和2年8月19日 13:30~14:30	身体障害者協議会 会員	12人	
	令和2年9月2日 13:30~14:30	身体障害者協議会 会員	11人	
	令和2年9月9日 13:30~14:30	身体障害者協議会 会員	14人	
	令和2年9月16日 13:30~14:30	身体障害者協議会 会員	12人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前プロジェクトで開催したボッチャが楽しく、自分たちでもやりたかったが、場所や道具が確保できなかった。今回のプロジェクトの中でできたことで、みんながスポーツをできる場となった。</li> </ul>		
成果(○)	○初めて身体障害者協議会と連携して教室を開催できたことで、総合クラブとさの活動を知ってもらうことができた。			
課題(●)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ニュースポーツの種目も体験でき、活動に取り入れて行きたいとの声を頂いた。</li> <li>○今後協議会に入ってくる方たちのスポーツ活動の推進につながる。</li> <li>○指導者不在の時でも、地域の方がボランティアでボッチャやフライングディスクを教えてくれている。</li> </ul>			

取組の評価	定期的に教室が開催できており、運動機会の確保・創出に繋がっている事は評価できる。
-------	--

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル			
実施団体	総合クラブとさ		
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室		
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう		
取組写真			
連携機関等	とさっちクラブ		
取組内容・種目	スラックレール・バランスボード		
・指導者等	総合クラブとさスタッフ1名		
実施期日	対象者	参加人数	計
令和2年8月13日 10:15~11:15	とさっちクラブの児童とスタッフ	8人	8人
令和2年8月19日新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止			
◆モデルづくりの視点		◆対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加繋がる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の協力が得られ、体育館までの送迎等はとさっちクラブのスタッフが行ってくれた。</li> <li>・今回土佐市民体育館での開催をきっかけに、総合クラブとさの活動を知ってもらうことができた。</li> </ul>	
成果(○)	○施設では思い切り体を動かすことができないので、こういう機会があつて良かったとの声が聞かれた。		
課題(●)	○施設の方も一緒に参加してくれ、子ども達のサポートをしてくれた。 ●密を避けるために、何回かに分けて開催する予定だったが、開催直後にクラスター		

	が発生したため、開催を断念した。
取組の評価	今まで関わっていなかった施設との関りを持つことができおり、地域の障害者施設での運動機会の創出に繋がっている事は評価できる。

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	総合クラブとさ			
取組の名称	障害当事者以外に対する障害者スポーツ体験教室			
目的	障害者スポーツを体験することで、障害者に対する理解を深めてもらう。			
取組写真				
連携機関等	高知シードラゴンズ			
取組内容・種目・指導者等	車いすバスケットボール 高知シードラゴンズ3名、総合クラブとさスタッフ4名			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年9月13日10:00~11:30	イベント参加者	25人	25人

◆モデルづくりの視点	◆対策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・ 支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・ 総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・ 総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チラシを学校や新聞折り込み、サークル会員に配布し、参加を呼び掛けた。</li> </ul>
<p>成果(○) 課題(●)</p>	<p>○車いすバスケットボールは、参加者が多く、車いすが足りなくなる程だった。</p> <p>○参加者からは、楽しかった、もっとやりたいとの声がかかれた。また保護者からも良い体験ができたと言われた。</p> <p>○日高特別支援学校の生徒、若草特別支援学校の生徒と先生の参加があった。保護者の方からは、今年はコロナ禍で学校が休校になったこともあり、子どもが運動不足になっていた。普段から車いすなので、運動する場もなく、体重が増加したり、便秘にもなって困っていた。こういう機会をもっと増やしてくれるとありがたいという声を頂いた。</p>
<p>取組の評価</p>	<p>障害の有無に関係なく多くの方が体験・交流し、競技の理解に繋がった事は評価できる。</p>

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	総合クラブとき			
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室			
目的	在校生を対象に、普段行わない体験してもらう。			
取組写真				
連携機関等	若草特別支援学校			
取組内容・種目・指導者等	フライングディスク教室・ボッチャ教室			
	フライングディスク：県フライングディスク協会 1名 ボッチャ：ボッチャ選手 2名 障害者スポーツセンター職員 1名			
実施期日		対象者	参加人数	計
令和2年9月15日 15時30分～16時30分		生徒・職員	6人	14人
令和2年10月13日 15時30分～16時30分		生徒・職員	8人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・種目は学校との相談で決めており、大会に出場する種目を主に練習した。</li> </ul>		
成果(○) 課題(●)	<p>○今年はボッチャをあまり経験していない生徒が多かったため、投げ方等基本的な指導を行った。</p> <p>○実際に大会に出場している方から指導を受けることで、生徒たちにわかりやすく、すぐに上達していた。</p> <p>○フライングディスク教室では、障害の特性によって投げ方を変えることで、最初は飛ばなかった生徒も、終盤には飛ばせるようになっていた。</p>			
取組の評価	専門の指導者や実際に大会に出ている指導者が教えることで、学校では指導しきれない部分をカバーできていることは評価できる。			

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	総合クラブとさ			
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室			
目的	在校生を対象に、スポーツ体験をしてもらう。			
取組写真				
連携機関等	日高特別支援学校			
取組内容・種目・指導者等	フライイングディスク教室 県フライイングディスク協会職員1名			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年9月10日15:30~16:30	生徒・職員	15人	23人
	令和2年9月24日15:30~16:30	生徒・職員	8人	
	◆モデルづくりの視点	◆対策		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・フライイングディスクの大会前に開催することで、生徒達の関心が高った。</li> <li>・事前にチラシを出して生徒や保護者の理解が得られるようにした。</li> </ul>	
成果(○) 課題(●)	○大会に向けて練習ができたことで、生徒の自信になった。 ○専門の指導者が癖を見ながら、その中でどうすればより飛ぶのか指導してくれたため、正確性や飛距離がのび、生徒たちのやる気に繋がった。 ○大会に向けて学校で取組むにあたり、生徒だけでなく、普段指導する先生方にも良い経験となっている。			
取組の評価	専門の指導者に指導を受けることで生徒だけでなく、先生にも指導方法が分かり、普段の練習にも取り入れることができるようになる事は評価できる。			

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	総合クラブとさ			
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室			
目的	在校生を対象に、普段行わない体験をしてもらう。			
取組写真				
連携機関等	日高特別支援学校			
取組内容・種目・指導者等	ダンス体験 高知リトルプレイヤーズシアター 1名			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年10月8日 15:30~16:40	生徒・職員	18人	36人
	令和2年10月15日 15:30~16:40	生徒・職員	18人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシを出して参加を呼び掛けており、保護者にも活動を知ってもらえている</li> </ul>		
成果(○) 課題(●)	<p>○今年人気の曲を使って踊る事で、生徒たちも盛り上がり踊る様子が見られた。</p> <p>○2回で終わりではなく、もっと開催して欲しいとの希望が出ている。</p> <p>●送迎の関係等で参加は一部の生徒に限られている。たくさんの生徒に体験してもらうためにはフェスティバルを開催し、全体で行う事を検討する必要がある。</p>			

取組の評価	教室を行うことで、ダンス部以外の生徒の参加もあり、新たなスポーツ機会の創出に繋がっているのは評価できる。

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	総合クラブとさ			
取組の名称	休日や放課後を活用したスポーツ体験教室			
目的	在校生を対象に、普段行わないスポーツ体験をしてもらう。			
取組写真				
連携機関等	日高特別支援学校			
取組内容・種目・指導者等	シッティングバレー教室 高知SVC職員2名			
	実施期日	対象者	参加人数	計
	令和2年12月3日15:30~16:30	生徒・職員	25人	42人
	令和2年12月10日15:30~16:30	生徒・職員	17人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ配布で参加者を呼び掛けた。</li> <li>・総合クラブとさの活動を知ってもらえるようになった。</li> </ul>		

成果(○) 課題(●)	<p>○毎年の参加を楽しみにしている生徒もおり、継続して開催する意義がある。</p> <p>○送迎に来ていた保護者も見学しており、子ども達の活動する姿を見ることで、運動の必要性を感じてもらえたのではないかな。</p> <p>○年に2～3回の開催だが上手になっている。ラリーが続くようになっている。</p> <p>●高知県シッティングバレークラブ会員が減少した為、活動が停止となっているが、入れる方がいたらすぐにでも再開できる。</p>
取組の評価	今年度で3回目の開催となるが、学校の授業では行っていない種目を外部指導者が教えることで、種目への興味や、卒業後の運動習慣に繋がるのは評価できる。

総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル				
実施団体	総合クラブとさ			
取組の名称	卒業生の入所する福祉施設の行事を活用したスポーツ体験教室			
目的	地域の福祉施設の入所者の方にスポーツ体験をしてもらう			
取組写真				
連携機関等	ふれあい工房（社会福祉法人 土佐福祉会）			
取組内容・種目・指導者等	ダンス・カーレット・ミニボウリング			
	ダンス：ボランティア指導者1名（11月）・カポエイラ指導者1名（1月） カーレット：総合クラブとさスタッフ2名 ミニボウリング：総合クラブとさスタッフ2名			
実施期日		対象者	参加人数	計
令和2年9月13日 10:00～11:30		通所者・職員	10人	20人
令和3年1月23日 10:30～11:30		通所者・職員	10人	
◆モデルづくりの視点		◆対策		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設側と種目について打ち合わせを行った。</li> </ul>
<p>成果(○) 課題(●)</p>	<p>○昨年の活動が高評価だったため、今回の開催に繋がった。コロナ禍だが、入所者があまり多くないため、開催が可能になった。</p> <p>○通所者の運動レベルに合わせた動きでダンスの指導を行った。普段はあまり運動していないようで、息が上がる様子も見られたが、身体を動かすことは楽しかったようで、全ての振りを覚えてくれていた人もいた。</p> <p>○腕の力が弱い方が多かったため、カーレットは通常の長さでは届かなかった。途中を外して短い距離にするとゲームを楽しめた。</p> <p>○2回目の教室開催の際には、アップテンポな曲に合わせてダンスを行ったが、参加者に好評で、終わった後もずっと続きをやりたいと要望されていた。</p> <p>○ミニボウリングも好評で、普段施設や家ではできない事ができて喜ぶ様子が見られた。</p> <p>●運動する機会が少ないようなので、定期的に運動教室を開催できる体制があると良い。</p>
<p>取組の評価</p>	<p>昨年の取り組みの成果が今年に繋がり、継続して教室が開催できている事は評価できる。</p>

<p>総合型地域スポーツクラブが特別支援学校の在校生や卒業生をターゲットとした取組を中心とするモデル</p>		
<p>実施団体</p>	<p>総合クラブとさ</p>	
<p>取組の名称</p>	<p>休日や放課後を活用したスポーツ体験教室</p>	
<p>目的</p>	<p>障害を持っている人が身近な地域でスポーツを楽しむことができる機会の創出</p>	
<p>取組写真</p>		
<p>連携機関等</p>	<p>日高特別支援学校・若草特別支援学校・とさっちクラブ</p>	
<p>取組内容・種目・指導者等</p>	<p>シッティングバレー</p>	<p>高知SVC 2名</p>
	<p>ターゲットナイン</p>	<p>総合クラブとさスタッフ 1名</p>
	<p>サーキット</p>	<p>総合クラブとさスタッフ 2名</p>
	<p>ミニボウリング</p>	<p>総合クラブとさスタッフ 1名</p>
	<p>ダンス</p>	<p>総合クラブとさスタッフ 1名</p>

	カローリング	総合クラブとさ理事 1名		
	ボッチャ	総合クラブとさ理事 1名		
	シャフルボード	総合クラブとさ理事 1名		
実施期日		対象者	参加人数	計
令和3年2月28日 10:00~12:30		イベント参加者	7人	7人
◆モデルづくりの視点		◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の児童生徒や卒業生、施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取組についての保護者・地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加に繋がる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシを学校や近隣施設に配布し、申込先を学校や施設または総合クラブとさとして、申込をし易くした。</li> <li>・参加者には、今後のイベントの案内とクラブのパンフレットを配布した。</li> </ul>		
成果(○) 課題(●)	<p>○日高特別支援学校を通じての参加が2名あった。学校行事ではないイベントに自分から参加したいと申し出があったことは、今までの活動の成果が表れている。</p> <p>○若草特別支援学校の先生も勉強のために参加して、一緒に色々な競技を体験していた。</p> <p>○今回高校3年生の申し込みがあり、卒業後のスポーツ機会をどうしようかと悩んでいたが、今回保護者も一緒に参加してくれたことで、連絡先を聞くことができ、今後のイベントの際に案内が送れるようになった。また、とさっちクラブに通っている小学生が1名参加してくれた。今後、より多くの人に参加してもらえよう、声かけをしていきたい。</p>			
取組の評価	障害を持っている人が、身近な地域でスポーツをする機会の提供ができていることは評価できる。また、今後に繋がる活動となっている。			

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組を中心とするモデル	
実施団体	くぼかわスポーツクラブ
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。
取組写真	
連携機関等	NPO法人由菜の里

取組み内容・種目・指導者等	ボッチャ体験教室 県ボッチャ協会職員1名		
実施日	対象者	参加人数	計
令和2年10月9日14:30~16:00	施設利用者・職員、スポーツ推進委員、くぼかわSC、町職員、県スポーツ課	23人	38人
令和2年10月16日14:30~16:00		15人	
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取り組みについて地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加につながる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業所利用者の就業時間後に、時間設定した。由菜の里の教室に対する配慮と運営協力により行えた。</li> <li>・日ごろから地域クラブとのかかわりが深い</li> <li>・支えるボランティアのなかで、クラブの会員として活動している者もいる</li> </ul>		
成果(○) 課題(●)	○毎年参加してくれている団体であり、ボッチャに関してはルールもある程度理解していて、スムーズに教室を行うことが出来た。 ●施設外業務やイベント参加があり日程調整に苦労した。		
取組の評価	初めはコントロールが難しく、苦労していたが、時間が経つにつれ、ボッチャ競技の楽しみ方がわかるようになった。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組を中心とするモデル	
実施団体	くぼかわスポーツクラブ
取組の名称	地域の障害者福祉施設でのスポーツ体験教室
目的	総合型クラブ、障害者団体、福祉施設等が連携した地域の障害者福祉施設の入居者向けスポーツ体験教室の実施を中心とする複数の取組を行い、障害者のスポーツ参加機会の拡充や各障害者福祉施設で日常的にスポーツ活動が実施される体制の構築を図る。
取組写真	
連携機関等	NPO法人由菜の里、ボランティア団体Doネットワーク

取組内容・種目・指導者等	フライングディスク教室 高知県障害者スポーツセンター職員1名		
実施日	対象者	参加人数	計
令和2年10月23日14:30~16:00	施設利用者・職員、看護師、スポーツ推進委員、くぼかわSC、町職員、ボランティア、県スポーツ課	21人	21人
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>総合型クラブや各取り組みについて地域への周知</li> <li>総合型クラブが実施する既存活動への参加につながる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業所利用者の就業時間後に時間設定した。由菜の里の教室に対する配慮と運営協力により行えた。</li> <li>日ごろ、由菜の里をボランティアとして支えている「D○ネットワーク」から4名参加。</li> <li>施設職員等で、クラブの活動に参加している。</li> </ul>		
成果(○) 課題(●)	<p>○ドッチビー、ディスクゴルフなどフライングディスクだけにとらわれず色々なスポーツを取り入れたことにより、参加者も終始笑顔での体験となった。参加者の感想でもあったが、「ドッチビーなど、楽しく体が動かせた。こういった活動には今後も参加していきたい」と温かい感想も頂けた。</p> <p>○ボランティア団体の会員が参加したことで、ボランティア活動としての障害者スポーツの理解が得られた。</p> <p>●施設外業務やイベント参加があり日程調整に苦労した。</p>		
取組の評価	法人は、日ごろから利用者の健康管理に力を入れており、パラスポーツにも理解を示しているため、今後も継続した取組が期待できる。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組を中心とするモデル	
実施団体	くぼかわスポーツクラブ
取組の名称	各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導講習会
目的	指導者講習を行うことで、福祉・教育・スポーツの関係者を対象にボッチャの指導、支援者を広げ、各施設、事業などでもボッチャの技術を高め、今後の障害者スポーツの参加機会の拡充を図る。
取組写真	
連携機関等	障害者支援施設オイコニア、NPO法人由菜の里、四万十町教育員会生涯学習課、

	四万十町役場健康福祉課		
対象者	各関係施設、関係団体		
取組内容・種目・指導者等	ボッチャ指導者講習会 県ボッチャ協会職員1名		
実施日	対象者	参加人数	計
令和3年2月3日 13:30～15:30	関係団体、スポーツ推進委員、くぼかわSC、県スポーツ課	12人	12人
◆モデルづくりの視点		◆対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>総合型クラブや各取り組みについて地域への周知</li> <li>総合型クラブが実施する既存活動への参加につながる工夫</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各関係団体との時間調整等を図り、参加しやすい時間等を考慮し実施。</li> <li>四万十町内の各学校等でもボッチャの活動を広めてもらうべく、学校長宛に参加案内をした。</li> <li>関係施設、団体、学校への周知。</li> <li>施設職員等で、クラブの活動に参加している</li> </ul>	
成果(○) 課題(●)	<p>○ルール説明、技術的な指導方法など幅広い講習が開けた。</p> <p>○参加者から「ルールを把握できてなく、今回の講習会で勉強になった」、「重度の障害の方でも参加できることがわかり、サロン等でも活用してみたい」等の感想があった。</p> <p>○福祉施設以外の方も参加いただいたことで、支援者の広がりもでき、障害者スポーツの理解、ボッチャスポーツの道具からルール・技術向上のための指導方法などが得られた。</p> <p>●施設外業務やイベント参加があり日程調整に苦労した。</p>		
取組の評価	今後も継続した指導講習会を行うことで各施設での指導取組が期待できる。また、コロナ禍において施設に外部指導者を招くことが出来ない施設もあり、指導技術を学ぶことで各施設での技術の広がりが見込める。		

地域の福祉施設入所者をターゲットとした取組を中心とするモデル	
実施団体	くぼかわスポーツクラブ
取組の名称	各関係者を対象とした障害者スポーツ種目の指導講習会
目的	指導者講習を行うことで、福祉・教育・スポーツの関係者を対象にボッチャの指導、支援者を広げ、各施設、事業などでもボッチャの技術を高め、今後の障害者スポーツの参加機会の拡充を図る。
取組写真	 

連携機関等	四万十町社会福祉協議会、四万十町スポーツ推進委員会		
対象者	各関係施設、関係団体		
取組内容・種目・指導者等	ボッチャ指導者講習会 県ボッチャ協会職員 1 名		
実施日	対象者	参加人数	計
令和 3 年 2 月 17 日 13:30～15:30	関係団体、指導員、スポーツ推進委員、くぼかわ S C	9 人	9 人
◆モデルづくりの視点	◆対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所者が参加しやすい運営の工夫</li> <li>・支える人材（地域ボランティアスタッフ）の確保</li> <li>・総合型クラブや各取り組みについて地域への周知</li> <li>・総合型クラブが実施する既存活動への参加につながる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係団体との時間調整等を図り、参加しやすい時間等を考慮し実施。</li> <li>・四万十町内の各学校等でもボッチャの活動を広めてもらうべく、学校長宛に参加案内をした。</li> <li>・関係施設、団体、学校への周知。</li> <li>・施設職員等で、クラブの活動に参加している</li> </ul>		
成果(○) 課題(●)	<p>○ルール説明から始まり、技術的な指導方法など幅広い講習が開けた。</p> <p>○福祉施設以外の方も参加したことで、支援者の広がりもでき、障害者スポーツの理解、ボッチャスポーツの道具からルール・技術向上のための指導方法などが得られた。</p> <p>●2回の講習会だったが、続けての参加者が無く、次年度は続けて参加してもらえるような日程調整が必要となる</p>		
取組の評価	今後も継続した指導講習会を行うことで各施設での指導取組が期待できる。また、コロナ禍において施設に外部指導者を招くことが出来ない施設もあり、指導技術を学ぶことで各施設での技術の広がりが見込める。		

## V 成果と課題

### ◇ 成果

- 新たなスポーツ機会の提供により、学校や施設での活動以外に地域でスポーツ活動を行うことがあまり無かった方々のスポーツ参加につながった。
- 各取組において多くの関係者の協力を得て展開できたことにより、それぞれの活動の充実が図られるとともに、支援者の増加、関係者の連携の広がり、障害者及び障害者スポーツの理解の深まりにつながった。
- 本事業をきっかけに連携した関係者により、本事業以外の自主的な取組として新たな展開につながった。

### ◇ 今後の課題

- 本事業で展開した各取組の継続及び普及に向けた、財源の確保や関係者のネットワークのさらなる強化。
- 障がい者スポーツ指導員やスポーツ推進委員など多くの支援者に協力をいただいたが、今後さらに障害者のスポーツ活動の充実を図るためには、指導者やボランティアなどの支援者の確保が必要。
- 障害者のスポーツ活動のさらなる充実を図るためには、地域地域において障がい者スポーツ指導員の資格取得者の増加による、活躍できる機会を拡充することが必要。

## 参 考

## 高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会設置要綱

### (目的)

第1条 県内において障害者がスポーツに関心を寄せ、継続的にスポーツ活動に参加できる機会の拡充を図るための実践研究をより効果的に実施し、障害者スポーツの普及モデルとして着実に成果を残すため、スポーツ関係者や福祉関係者、学識経験者などで構成する実行委員会を開催し、課題の把握と解決に向けた取組の検討や実践研究の進捗管理、事業内容の検証等を行うとともに、その成果を広く普及することを目的に、「障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

### (内容)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 課題の把握と解決に向けた取組の検討。(移動手段に関する研究。)
- (2) 実践研究の進捗管理。
- (3) 実践研究の成果等の検証。

### (組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成し、別表に掲げるもの（以下「委員」という。）をもって組織する。

2 委員は、高知県知事が次の各号に掲げる者のうちから、委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 実践団体関係者
- (3) 協力団体関係者
- (4) 県内スポーツ団体関係者

### (任期)

第4条 委員の任期は、本事業が完了するまでの期間とする。ただし、委員に変更があった場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長等)

第5条 委員会の委員長及び副委員長は、各1名とし、委員の互選とする。

### (会議)

第6条 委員会の会議は、高知県文化生活スポーツ部スポーツ課長が招集する。

2 委員会の会議の議長は、委員長が務める。

### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、高知県文化生活スポーツ部スポーツ課が行う。

### (雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営に関しての必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

### (附則)

この要綱は、令和元年6月10日から施行する。

## 高知県障害者スポーツ推進プロジェクト実行委員会委員名簿

役 職	氏 名	所 属
委 員	常行 泰子	国立大学法人高知大学
	北村 大河	高知県社会福祉協議会
	武市 光徳	NPO法人まほろばクラブ南国
	田井 直子	NPO法人総合クラブとさ
	牧野 秀男	NPO法人くぼかわスポーツクラブ
	池添 和博	高知県立山田特別支援学校
	土居 真一郎	高知県立日高特別支援学校
	濱田 邦彦	高知県立高知若草特別支援学校
	正岡 佳代	高知県立中村特別支援学校
	島崎 伸一	高知県スポーツ推進委員連絡協議会
	小松 むつ子	高知県レクリエーション協会